

令和4年度学校評価報告

					04	下高井農林高等学校
評価項目		項	自己評価	学校関係者評価	評価点	次年度に向けた改善策
進路指導	計画的な進路指導とキャリア教育の充実	1	新型コロナウイルス感染症は進路指導、キャリア教育の面で影響を感じた。対面で行う活動の制限やインターンシップの中止など子どもたちの職業観や働くことへの関心・意欲の高揚を通じた学習など満足いく取組に不安を感じた。しかし、オンライン進路講話や本校独自の説明会の開催、グーグルクラスルームを活用した指導など、学びを止めない姿勢で取り組むことができた。	今後コロナウイルスの対応が学校指導にどのような影響があるのかかわらないが、学びを止めない姿勢を継続してほしい。新型コロナウイルス感染症等先の見えない中、オンライン等工夫を凝らしての進路指導が見えてよい。	4.8	次年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した計画的な指導が求められる。地元や県内の企業情報を伝えるため、関係機関、企業と連携しながらインターンシップや高校内企業説明会などを企画・運営し、進路実現に繋がるよう指導にあたりたい。
		2	例年同様、生徒の希望を優先しながら指導を進めた。特に、就職希望者は、コロナの影響で企業情報を得ることが困難であったが、本校独自の企業説明会や面談を重ね、必要に応じて企業等の開拓を行うなど、指導の充実を図った。	生徒へのアンケートでは、3年生の進路指導について満足度が高くなっている。情報収集困難での指導は、大変だったと思うが、生徒に寄り添った進路相談が見受けられ、次年度でもできる限りの対応をしてほしい。JR等優良企業の就職者もあり、努力が見受けられる。	4.8	生徒との面談、進路講話など正しい情報提供を生徒及び保護者に発信すると共に、進路実現に繋がるよう指導にあたりたい。
授業展開	個に即した丁寧な授業指導	1	ICTを活用した「主体的対話的な学び」の充実に向けて、授業アンケートや研究授業等を実施し、生徒の興味・関心を高める授業改善を目指した。また、出席停止により登校できない生徒に対してはオンライン授業や課題指示文書を個別配布し、生徒の学びの保障に努めた。	少人数で個々に即した、きめ細やかな授業が生徒の学びを支える指導を行っているのを、保護者アンケートから7割以上の人が感じると答えているのは、評価できる。	4.6	「主体的対話的な学び」の充実に向けて、オンライン授業を含めた効果的なICTの活用について、校内での研究授業・授業参観での情報共有や研修等を通して、よりよい授業づくりを目指して研鑽を続けたい。
		2	専門学習の充実が課題研究の成果として現れ、地域からも高い評価をいただいた。資格取得ではコロナ対策を実施しながら計画的な展開ができ、多くの生徒が資格を取得した。	資格取得に対する満足度が高い。資格取得は真剣に取り組んでいて成果も出ていると思う。引き続き生徒に必要な資格はどんどん取らせてほしい。専門学習、資格取得の充実が下高井農林高校の要と思われるので、指導の継続をお願いしたい。専門学習は、課題研究発表を聞き、素晴らしい取り組みに感激した。	4.8	普通教科を含めた広い視点からの体系的な学習の確立により、専門学習の一層の充実を図る。資格取得の積極的な取得を継続して進めたい。
生徒指導	基本的生活習慣等の確立	1	基本的生活習慣・授業規律の確立、問題行動の予防、交通安全意識の向上を柱に指導を行っている。ほとんどの生徒が挨拶から始まり、ルールを守り、規律正しい生活が出来ていると感じる。例年通り、服装・頭髪の指導、朝と昼の立ち番、授業中の巡回指導も全職員で取り組んでいる。生徒は落ち着き、真面目に高校生活を送っている。	基本的という概念・基準の変化がある中で、指導側の判断が難しいところだと思う。しかし、ルールを守れることを当たり前にできるように今後も指導してほしい。あいさつ等はよくできていると思う。朝昼の先生の立ち番など頭が下がる思いです。継続してほしい。	4.4	挨拶や、時間を守るなどの基本的生活習慣は継続的に指導する。交通安全意識の向上をはかり、特に自転車乗車用ヘルメット着用に関する努力義務を指導していく。服装や頭髪に關して、違反生徒への注意を怠ると、全体的に規範意識が薄くなり乱れていくので、立ち番指導や、巡回指導も継続していきたい。SNSに關係し、友人トラブルに発展することも多々あるので、常に注意していきたい。
		2	問題行動の発生時や、友人トラブルやいじめなどの訴えに対し、全職員が情報共有をし、迅速かつ個々の事案に応じた的確な対応を行った。SNS等の問題行動にも、個々に事の善し悪しを伝えながら指導することができた。	情報共有はしっかりと行っており、これからも個々の対応について丁寧に対応をお願いしたい。アンケート結果より、保護者・生徒は充実した学校生活に寄与するきめ細やかな指導を感じている点を評価したい。	4.6	発達障害と診断される生徒も増えており、個々の問題行動に対する指導は、速やかに、かつ慎重に行う必要があり、教育相談との連携も取っていききたい。
健康安全指導	感染症対策の実行	1	感染症予防対策を徹底するため、校内放送やオクレンジャーを活用するなどして生徒の意識の継続を図り、その実践に結びつけた。行事ごとに計画や内容を検討して感染しにくい環境整備を学校一丸で取り組んだ。オンライン授業の充実も図れた。	感染症対策は引き続き実施してほしい。感染対策は、どこかの教育現場、企業でも大変ですが、取り組むことへの意識の向上は図られたと思う。学校全体での感染症予防対策はよく努力されていたと思う。	4.8	感染症予防対策に関する情報収集を進め、生徒及び保護者への情報提供を継続し、感染拡大防止に一層努める。並行して感染予防のための環境整備を進めるとともに、生徒会が主体となって全校に感染防止を呼びかけるなどの啓発活動の充実を図る。
		2	農林祭・体育祭・クラスマッチのいずれにおいても、感染対策(密回避)と熱中症対策(テント・シェード配置)に注力し、生徒の自主活動になるべく保障できるよう工夫した。また春季生徒総会は参集とせず、放送によることで予防することができた。GAP学習やHACCP学習、農業機械の授業等を通して、危険箇所の改善や危害分析および作業者の労働安全について学び、安全管理や衛生管理について理解を深めることができた。	安全教育については引き続き対応してほしい。GAP、HACCPは今後も重要で、これからも取り組むことの意義等指導してほしい。農林祭は前年度より来場者の範囲を広げるなど状況を見ながら安全対策をして取り組んでいる姿が見られた。	4.6	今後もGAP学習やHACCP学習を継続することにより、生産に関わるリスク管理の重要性と必要性について、生徒自身が理解を深められる授業を行う。
教育支援	生徒相談の充実	1	こまめな生徒状況報告で全職員が情報を共有し、生徒保護者からの相談に丁寧に对应できた。外部専門家を交えたスクリーニング会議を6回開催し、支援体制をより深めた。自ら相談しにくい場合も、各学期末に学校生活アンケート(アセス・学校適応感尺度)を行って困り感のある生徒を見出し対応した。カウンセリングは毎月希望者に行っている。	生徒の声にしっかりと耳を傾けてほしい。必要とする生徒は必ずいると思う。状況が様々で大変だと思うが、今後も生徒に寄り添う姿勢で丁寧な対応をお願いしたい。アンケート結果から生徒が気軽に相談できると9割以上の人が答えていて、また先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれていると9割が答えている点は素晴らしい。	4.8	職員の情報共有、外部専門機関との連携をより深め、生徒の学校生活充実を図る。また、生徒が相談しやすい雰囲気作りにも、普段の声掛けや対応を丁寧にを行う。
		2	特性上必要な生徒に対し、試験問題漢字ルビ振りの学習支援を行った。SSWによる支援を充実させ、生徒保護者の相談先の拡充を図った。	保護者及び生徒の声を聞いてほしい。難しい対応だと思われるが、上記同様丁寧に对应をお願いしたい。きめ細やかな支援が評価できる。	4.4	個々の特性を把握し、教科毎の学習支援を丁寧にを行うことで、生徒の自己肯定感向上を図る。安心して学習に取り組める環境を整備し、保護者の心配にも寄り添った対応ができるように努める。
		3	農林祭を全校で盛り上げるために、広報活動に力点を置いた。また、イベントや企画を考える際には、目的は何なのかを明確にした。その結果、自ら考えられるようになってきている。自主的な農業クラブ活動の経験が大きな達成感を生み、自己肯定感を高め、更なる活動の活性化や自主性の向上に繋がった。それらの活動が認められ、農業クラブ各種県大会クラブ活動発表の部では、優秀賞を受賞した。	今後も自主的な活動、自主性の向上に力を入れてほしい。農林祭に際しては、花火を打ち上げたり、迷惑がかかるかもしれないと近隣の家を訪問して回るなど頑張っている様子が見られた。	4.6	生徒会全般について、自主自律の精神を重んじた活動を継続させたい。また感染症の状況に注視しつつ、地域に足を踏み出す活動を少しずつでも再開させたい。
開かれた学校づくり	学習成果の発信	1	SNSおよび月1回発行の農林だよりにて積極的に情報発信した。近隣中学校にも年2回訪問し、本校の魅力をPRした。また、各種メディアでも本校の取り組みが数多く取り上げられ、ミライの農業をつくるオンライン講座のwebページには本校の活動が動画にて紹介された。	農林だより見せていただき、職場でも回覧している。これからは積極的に情報発信を期待している。マスコミで紹介されることが多く、また農林だよりは、地区の回覧板でも見ることができてよい。	4.6	本校の魅力や生徒の成長を実感してもらえるように、教科、生徒会、クラブ等での活動や学びの成果など、より多くの情報をSNSや農林だより、学校訪問を活用して今後も積極的に発信していきたい。
		2	多くの地域連携や地域貢献の取り組みを実施することができた。特に3年生の課題研究では、年間を通じて充実した取り組みができた。また、昨年に引き続き、道の駅「ファームス木島平」で農林市を開催し、地域に開かれた取り組みを継続することができた。	情報発信することでより地域と連携してほしい。年々、多様な取り組みで地域とつながる機会を作っていたらいい。研究発表会からも見て取れたが、地域連携・地域貢献大変素晴らしいと感じました。コロナ禍でいろいろなくところとの連携や地域貢献をするのが大変な時ですが、いろいろな取り組みをしていて素晴らしいと思う。	4.6	今後も地域と積極的に関わりながら地域の課題を知り、その課題に取り組める体制を構築する。特に2年目となる1年生の「北信州学」において、積極的に地域と関わりながら、地域連携・地域貢献の芽を生徒の心に植え付けたい。